



奥日立きららの里に周遊バスが運行!

昨年12月、自然豊かな奥日立きららの里に周回道路を周遊するバスが運行し園内移動が便利になった。バスは電動低速の「グリーンスローモビリティ」、1周約3kmを時速10km未満で走る。乗車人数は9人。午前9時30分から約50分間隔で運行(基本8運行/一日※冬季は7運行)し、所要時間は約40分。停留所はセントラル広場(発着)、スライダー・きらら館まえ、やまびこ広場前の3ヶ所。使用料金は1



回100円(小学生未満は無料)、6回につき500円の回数券もある。
アウトドアを満喫できる奥日立きららの里は平成6年にオープン、今年で28年になる。広さは東京



う宮澤さん。栄養バランスも考え、野菜の甘みも感じられるようにと味付けした体にも心にもやさしいメニューは10数種類。人気があるのは、農家おまかせ一汁三菜(980円*税込)。メインを肉か魚か両方か、選ぶことができる。"ほうれん草のカレー"。ほかにソースカツ丼やイワシのフライ丼といった丼物、ペンネやおむすびも!。予算に応じて作ってもらうこともでき、玄米菜食、食物アレルギーといった相談にも応じてもらえる。テイクアウトOK、10個からは配達もOK。
店内では毎月7回ほど、手仕事教室味噌作り、薬膳マイスター養成講座、野菜を楽しもう、手仕事教室山菜保存食といったイベントも行われておりいつも満席になる(定員あり)。

★アグリキッチンもぐもぐ 日立市東滑川町5-1-3 シーマークスクエア1Fフードコート 営業時間10時~20時(19時LO) 〈予約・注文・申込み・問い合わせ〉 0294・87・8800

ドーム10個分。現在人気なのがオートキャンプ場。3月31日までケビンはお得感満載で、宿泊・休憩が50%OFF。広い園内、楽しみ方は色々。日本一の長さを誇るわくわくスライダーは入場者の7割ぐらいの人が乗車する。園内には登山道入り口もあるので、これからの季節は足を延ばしてのハイキングもおすすめ。ちなみに、神峰山へは約1・8km30分、高鈴山へは約4km90分のコース、お客さんの中には宿泊して楽しむ人もいます。
★奥日立きららの里 日立市入四間町863-1 月曜定休 TEL0294・24・2424
「奥日立きららの里」で検索

地元の野菜が食べられるお店

地元の農家さんが育てた有機・無農薬野菜を使った料理が喜ばれている「アグリキッチンもぐもぐ」。オープンは昨年。

店主は、実家が農家で農業の学校で働いていたこともあるという葉膳料理家の宮澤孝子さん。全国に比べて日立は農業に携わっている人が少なく、生産者の顔が見えにくいと言う。それを伝える場所があれば...と作ったのがこのお店。アグリは農業という意味で、まさしくそのまんま。

地元の野菜を食べることが一番健康につながるという

マンガ『道知るべ』続長久保赤水の一生

を読んでの感想文を募集中!

『道知るべ』続長久保赤水の一生(B6判、272ページ550円※税込)は、高萩市出身で江戸時代の地理学者長久保赤水(1717~1801)の生涯の後半にスポットをあて描いたマンガ。農民出身ながら様々な学問に精通し、その秀でた秀才で魅了された6代水戸藩主徳川治保をはじめとする著名人たちとの交流や、郷里赤浜に帰る81歳まで、生涯現役を貫き通した赤水の業績が史実に基づいて細やかに著されている。合わせて幼少期からの成長を描いた前作も収録されている。
編集・発行は長久保赤水の功績を伝える活動に取り組んでいる、長久保赤水顕彰会(会長 佐川春久さん)。顕彰会理事で日立市の会社員、原ヤスタカ(本名原康隆)さんが、約一年以上を要して完成させた。



赤水と六代藩主・徳川治保、江戸時代の著名知識人との交流が、史実に基づきわかりやすく描かれている。

感想文は原稿用紙800字以内(氏名・生年月日・年齢・職業(学校名)・住所を明記して送付)、締切りは令和4年3